

ともに生きる

SDGsの理念

誰一人取り残さない
社会にむけて



【問合せ先】 人権政策課 ☎072・433・7160

SDGs(エスディールズ)とはSustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略で、2015年9月の国連総会で採択された持続可能な開発のための2030アジェンダに記述された2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17の目標と169のターゲット、232の指標があり、なかでも人権分野は、①貧困をなくそう④質の高い教育をみんなに⑤ジェンダー平等を実現しよう⑩人や国の不平等をなくそう⑯平和と公正をすべからずの17の目標の多くに関連しています。

また、その前文には、SDGsの基本理念である「誰一人取り残さない」という言葉が用いられています。「誰一人取り残さない」社会を築くには、困難を抱える一人ひとりへの視点が大切になります。困難を抱えている人に気づくのは簡単なことではないですが、社会全体で見守り支える包括性のある地域・まちづくりが必要です。貝塚市内の7カ所の地域でボランティアによる子ども食堂が運営されています。地域ぐるみで子どもの居場所づくりや見守り活動を行うこのような取り組みは、SDGsの理念に一步近づけるものだと思います。

私たちの行動が未来を変える！
いい出会いを大切に！

2021年夏、ハート交流館では、SDGsをテーマに「自然を工作しよう！ウッドクラフト・切り絵」「摩訶不思議！七変化！ふろしきdeECO」「ゼロからわかる！やさしいつげさん手話教室」など、7講座を開催し、市内の小学生92人が参加しました。



今、世界は貧しい人々が取り残され、地球環境は悪化しており、このままでは安心して暮らし続けることができなくなると心配されています。

SDGsは、将来の世代のための環境や資源をこわさずに、今の生活をより良い状態にするための目標です。ハート交流館も、これらの目標に少しでも近づけるように、SDGsについて考えたり、話し合ったりで

きるような講座やイベントを行ってまいります。
【問合せ先】 ハート交流館 ☎072・432・595



【相談窓口】

一人で悩まずご相談ください。いずれも祝日、年末年始(12/29～1/3)を除きます。

◆人権政策課 人権相談

☎072-433-7160

日時 月～金曜、午前8時45分～午後5時15分

◆法務省みんなの人権110番

☎0570-003-110

日時 月～金曜、午前8時30分～午後5時15分

◆法務省子どもの人権110番

☎0120-007-110

日時 月～金曜、午前8時30分～午後5時15分

◆法務省外国人のための人権相談

☎0570-090-911

日時 月～金曜、午前9時～午後5時

◆法務省インターネット人権相談

パソコンやスマートフォン・携帯電話で「インターネット人権相談」と検索してください。

水間電車のヘッドマークに
生徒作品の人権ポスター

人権週間の取組みの一つとして、水間電車のヘッドマークデザインに市内の生徒による「人権ポスター」の作品が掲出されます(一部の車両)。
今年、市立第五中学校3年の三四菜乃さんの作品です。
12月10日までの期間、水間電車を見かけたときは、ぜひご覧ください(昨年の生徒作品も再掲されます)



作品に込めた思い 三四菜乃さん

昨年の春頃から新型コロナウイルス感染症が流行しはじめ、短期間に世界中に広がりました。

ある日テレビをつけると、歌手のMISIAさんが音楽番組で東日本大震災復興応援メッセージソングとして「明日へ」という曲を歌っていました。前を向き、明日へつなごうというMISIAさんの思いが歌詞に表れていて、私の心に強く響きました。

作品のテーマである「ピース」は平和の象徴であり、MISIAさんの明日へつなごうという思いを連想しながらこの絵を描きました。

市内中学校における「SDGsの視点を踏まえた食育」の取組み

今年度、市内の学校園では「SDGsの視点を踏まえた人権教育」を軸に様々な取組みを行っています。今回はその取組みの一つとして、中学校における「食育」の実践を紹介します。

子どもたちにとって、学校での給食の時間は大きな楽しみの一つです。しかし、コロナ禍では、以前のように「友だちと楽しく食事をする」ことはできません。そんな中、少しでも給食の時間が、子どもたちにとって楽しく学びのある時間となるように、市内の中学校では、献立や食材に関する豆知識を盛り込んだ校内放送を実施しています。そして、この放送には「給食の残食を減らす」というもう一つの大きな目的があります。そのため、放送の最後に『給食がまだ残っている人は、ごちそうさまの前に、あと一口食べましょう！』というメッセージを加えました。



これまでも、市内の学校園では「いただきます」という言葉を大切にしてきました。「いただきます」には、野菜や肉、魚などの命をいただくという意味はもちろん、食材の生産者や流通にかかわるかた、調理にかかわるかたなど、食にかかわるすべての人への感謝の気持ちが込められています。そんな感謝の気持ちを少しでも行動で示せるように考えたのが、放送内容に加えた『あと一口』という言葉です。

このような取組みを重ねてきた結果、子どもたちからは「給食は残さずに食べよう」「毎日ごはんを作ってくれている家族にありがとうの気持ちを伝えたい」という声も聞こえてくるようになりました。

今、世界では多くの食品ロスが発生しています。そしてその問題は、自然環境にも悪影響を及ぼしています。「食育」を通じて子どもたちがこの問題に関心を持ち「給食の残食を減らす」という一人ひとりの主体的な行動が、SDGsの目標達成につながるという意識を高めていきたいと考えています。

問合せ先 学校教育課 ☎072-433-7113

